

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

2013~2014年度 国際ロータリーのテーマ
ロン D.バートン

RI第2510地区 **留萌ロータリークラブ**

会報

2013 ▶ 2014
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ 会長目標 **集中と調和**

会長／中出敏彦 幹事／大嶋孝広

プログラム

- 本日
 - 理事・委員長退任挨拶
 - 会員誕生日
 - 6月13日 佐々木 繁
- 次週予定
 - 役員退任挨拶
 - 配偶者誕生日
 - 6月12日 長谷川幸江
 - 6月16日 宮尾 美穂

No. 2609

第46回 6月11日

出席報告

前例会

会員総数……………41名
 出免会員……………8名
 出免出席……………6名
 基準会員出席……………19名
 出席率……………71.42%

前々会

第43回 5月21日
 欠席会員……………12名
 内メイクアップ……………5名
 修正出席率……………90.00%

例会／毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告……………

1. 6月2日に新旧合同理事会を開催いたしました。最終理事会となりましたが、その中で6月例会プログラムの承認と、最終夜間例会の次第と予算を承認し、5月末の会計報告も承認されました。また、最後になりましたが残念なお知らせもございます。久木会員が6月30日付でクラブを退会することも承認いたしました。

- 国際ロータリー第2510地区第1グループガバナー補佐茶谷様、羽幌RCIM実行委員長加藤様よりIM出席の礼状が届いております。回覧いたします。
- 昨年10月江別市にて開催された地区大会の記録誌が届きました。大会登録された会員の皆様にお渡しします。なお、記録誌の127頁に留萌クラブのメンバーが載っておりますので報告いたします。
- 2014年1月に開催されたRI理事会にてロータリーの行動規範が改定されましたので、皆様に回覧いたします。



幹事報告……………

- 深川RCより会報No.2665~2667号と6月例会案内を受領しました。
- 芦別RCより会報No.2773~2778号を受領しました。



委員会報告……………

親睦活動委員会 高田委員長
 今年度も残すところあと1ヶ月となりました。

今月の6月25日の例会は最終夜間例会となっております。皆様方への出席確認は6月11日頃にFAXにてお送りいたします。今回はご家族の皆様のご参加もお待ちしております。今回は歌姫3名の歌謡ショウにてお楽しみください。多くの会員家族の出席をお待ちします。それと次週より理事役員・委員長さんの退任挨拶がプログラムにて用意されております。ニコニコBOXも用意しておりますので、退任される方々のご協力をお願いいたします。



3分間情報……………

会員研修委員会

清水副委員長

「富山ガバナーの時に」

1993～1994年度深瀬会長、高田幹事の折り、「信念そして理念と因縁」の運営方針でスタートした、富山ガバナー一時を思い出してみました。

1996年発行の地区史を見てみますと、当時留萌クラブの会員数は102名で、当時の地区役員の方は、代表幹事に寺西保博氏、幹事に井内球雄氏、大桶修一氏、越野俊興氏、佐藤潔氏、立山一三氏、道重幸氏、札幌モーニングクラブの近藤良一氏、札幌クラブの西條正博氏で、財務委員長に対馬良行氏、委員に澤井定七氏、地区大会の大会幹事が次年度ガバナーの札幌幌南クラブの羽部大仁氏、地区研修リーダーがバストガバナーの竹山氏、サブリーダーがバストガバナーの塚原氏、地区のクラブ奉仕委員長に石川健治氏、ローターアクト委員長に川合正修氏、広報委員会委員に平井誠治氏、GSE委員会委員に渡部英次氏が就任しておりました。現在留萌クラブに残っておられるのは、平井さん、渡部さん、佐藤さんの3名だけでございます。ペット、会長エレクト研修セミナーは札幌にて開催されましたが、地区協議会は留萌市の文化センター、懇親会はホテルカクセンにて開催されました。参加会員は632名という人数で、そのペットと地区協の頭には平井さんが就き、当時ガバナー事務所には仲原尚司さん、田中公一さん、杉本寛さん、中川勝美さん、そして私などが出入しておりました。地区大会は札幌厚生

年金会館とロイトン札幌に於いて、ホストクラブ札幌幌南にて開催されました。富山バストガバナーが地区史の中に感激の1年と題して文を書いておりましたが、その中には参加クラブが68クラブ、現在は71クラブありますが、登録会員が2,744名という事で、現在でもこの記録は破られておりません。「地区大会はホストをお引き受けくださった札幌幌南クラブのお陰で、空前の登録者と企画力と好天により成功裡に終了した。」とあります。

皆様もご存知だと思いますが、富山年度が始まってすぐに北海道南西沖地震がありました。この地区大会の初日のハイライトは、ビデオ上映で「憶えておいてくださいロータリー・災害の救援」製作者、亀井敏清氏とナレーター塚原孝子様力作は視聴者の涙を誘ったものです。この北海道南西沖地震では総額145,489,000円の寄付が集まり、その全額を被害救助に使用しました。総額の内80,489,000円は日赤道支部へ、65,000,000円は青少年支援に使用され、奨学金を支給した生徒は117名でした。富山バストガバナーは、「願わくばこれらの生徒諸君が、将来地球規模でものを考えられる人に、国際理解のある善良な日本国民に成長してくれる事を願うと共に、思いやりの心を育ててくれることを祈ってやまない」と書いてあります。

やはりガバナーになると、世界的な見地で物事を見るのかなと思いました。



ニコニコBOX……………

- 新旧合同理事会出席ありがとうございました。
中出会長
森(俊)会長エレクト
- 本日、念願のタイトルで卓話の機会を頂きました。ありがとうございます。平井会員
- I Mにてななつぼし当たりました。鈴木会員
- I Mにて米当たりました。山本会員
- 羽幌 I Mでオロロン米が当たりました。
高橋会員
- 新旧合同理事会の後の二次会は楽しかったです。
高田会員

- ご婦人と共に唄い、ダンスを致す。これ男子の本懐なり。 行徳会員
- 地区大会記録誌に写真がのりました。 渡邊会員

前 回	707,600円
今 回	11,000円
累 計	718,600円

プログラム……………

「私の尊敬する先輩ロータリアン」

平井 誠治 会員

留萌クラブは1961年2月に創立され、その歴史は53周年を超えた。私自身もその10年後の昭和46年、1971年9月入会だから遂に在籍43年目の最古参会員となった。その私が永い間胸に収めていた表題について今お話できる機会を得て、大変嬉しく思っております。世に一つの名言がある。「人間、その人生には幾つかの出会いといえるものがある。時には、その人生を根底から変える出会いもある。」この言葉を根底に置きながら、話を進めたいと思います。



私がひたすらロータリーの長い道のりを歩んだ中で、当然、多くの会員との出会いがあった。しかし、決定的に私の心を惹きつけたのは、私が入会した年度の第11代会長加地民一氏であり、それを継ぐ第12代会長石川健治氏であり、加えて第14代会長富山唯夫氏の3人の先輩会員であります。ともに、留萌クラブを「地区内有数のクラブの一つ」と言わせるまでに成長、発展させた牽引者であり、誇りとする先輩ロータリアンでありました。

クラブの歴史をよく観察すると、創立後の10周年目、1970年に留萌クラブは歴史的発展への躍動が始まったと思います。私なりにその要因を挙げるとすれば、次の4点に集約されます。

第1点は相携えての優れたリーダーの登場。

この時期、加地、石川、富山の各氏がクラブの中枢に登場して、優れたリーダーシップを發揮した。ともに大正14年生まれ。地域の人達から、職業上でも尊敬される充実した40代後半の医師たちだった。それまでのクラブリーダーの年齢を一段と若返らせた。率先して突き進む3先輩の情熱と、提唱する新成長戦略は全会員の信頼と共感を得て、クラブは確実に成長路線を走り始める事になった。2点目、それまでの社会的な地位・名誉に拘りがちな会員増強の殻を破り、若手会員の勧誘に挑戦した。その結果、発想力・行動力に富んだ若手の中堅経営者を多く迎えることができ、その年、彼等の入会は10数名を数えた。大胆な若返りはクラブの体質を構造的に変える変革であった。新しいエネルギーはクラブの活性化に大いに寄与した。そしてこの傾向は、翌年以降も確実に続いた。1961年創立当時は21名、1970年には50名、1980年に100名となった。最大は1988年の117名であった。3点目は全会員の参画意識の高揚である。例会出席競争で出席への意識高揚が高まり、100%に近い出席率を維持し、当時の地区内出席競争では常に5～6位を確保していた。ロータリー活動への会員の情熱はクラブの勢いに連なった。そして4点目は、全会員の奉仕の喜びと感動の体得であります。クラブでのビッグプロジェクトの取組み、例えば論山RCとの姉妹血縁と相互交流、国際青少年交換事業、ローターアクトクラブの設立など、地区で先駆的事業の取組みを行った。その事がクラブ会員に全員参加の仕組みと奉仕の喜びと感動を体得させたと思います。

この様に、クラブの中枢に優れたリーダー3人、加地氏、石川氏、富山氏が相次いで登場し、クラブ変革への挑戦を続けたことは、クラブ内外から注目されたが、クラブ会員もこれに応えたからである。クラブは活力に満ちていた。ここに、「北に留萌クラブあり」の始まりであった。クラブの会員増強は急速に進み、持続的に100名を超える集団となった。例会の出席ばかりでなく、地区大会でも連続100名を超える集団となった。例会の出席だけでなく、地区大会でも連続大集団で参加し、クラブ紹介に応えた。地

方都市の異様な勢いに毎年、場内から驚きの声さえ聞こえた。数多くの愛好会の活用など会員融和に力を注ぎ、職業上や年齢間に垣根を見せないクラブを確立していた。毎例会での三分間情報や炉辺会合が確実に実施され、全会員にロータリー教育が常に推進されていた。各種討論会や協議会でも、留萌クラブの会員が部門別リーダーとして活躍した。自クラブの四大奉仕部門の幅広い奉仕活動の成果が、その裏付けとなっていた。クラブの公式訪問で、幾人かのガバナーが、隙を見せない留萌クラブの勢いに、「些かひるむ姿」を見せたとも言い伝えられている。

ここで誇りとすべき3賢兄ロータリアンの人柄についてお話をいたします。

3賢兄は共に大正14年生まれの医師で、お互いに強い信頼と友情で結ばれていた。全ての会員に敬慕されて、クラブ内ではそれぞれ「先生」と言われていたので、ここでも先生の呼称でエピソードを混じえ、お人柄の一端をご紹介します。

○加地民一先生

「優しさに厳しさも、高潔な人柄はクラブ会員の精神的支柱であった」

1925年3月31日生まれ、外科医、1961年6月10日入会、1991年2月27日ご逝去。第11代会長、会長方針は「参画、実践、体得」

地域で外科医の第一人者であり、地域の医師として高い信頼度、人間としての優れた魅力を持つ。豊かな知性と高潔な人柄はクラブ会員の心を惹き付け、多くの会員から敬慕されていた。会員増強での質か量かの論議があった時、「数は力、人間は変わるもの、量は質に変質する」「量を軽んじてはならない」と主張し、全ての人間の可能性を信じ、若い会員の入会を強く提唱した。若い会員の声を聞き、語り合う心の温かさは、若者の才能を開花させる事に連なった。その事が若い会員の敬愛の念を集める結果ともなった。しかし、不義不誠実な行動には厳しい姿勢を示し続けた。自らの医院では、職業奉仕を実践し続けた。診療開始時間を早めて患者の勤務時間を損なう事を避けた。加地先生がいる

クラブとして、全会員の誇りと優越感が広がっていた。クラブ会員からは何処からともなく、「主・イエス」を彷彿させるとの声も聞こえていた。加地先生の見識の一端を紹介する。第1に「振り子の原理」である。果敢に取り組み、行き過ぎても補正されながら更なる進歩に連なる。第2に「甘えの構造」。優れた日本人の許容する心という本来の意義を失って、誤った甘やかし、甘ったれになっていないか、それを憂う。「他人を叱る運動」子どもの頃からのしつけが大事、他人の子供を叱るからには、自分の子供を叱る事が出来なければならぬ。きちんと叱ろう。ちゃんと褒めよう。「父親の復権を説く」家庭での父親の役割が軽視されて良いのか。気薄になった家庭教育を再興しなくてはならない。「武士道の精神を尊ぶ」義＝正義の道理。仁＝愛、寛容。礼＝道徳的な節度。先生の寄稿文に見ると、硬派で男臭さを志向する。草食派男性を嫌う。礼節、勤勉、誠実、道徳、謙虚、慈愛、寛容などがありました。

○石川健治先生

「溢れる知性、俊敏な判断力と決断力、そして強い突破力でクラブを主導した」

1925年11月29日生まれ、歯科医、1961年6月10日入会、第12代会長、会長方針は「ひとりひとりの心からロータリーが始まる」

「即決即断型」俊敏な判断力と決断力に富む。「強い行動力、突破力」徹底的に極めるタイプ。「会員増強での持論」これで良いと思った時が衰退のはじまり。留萌ロータアクトクラブ設立に獅子奮迅の活躍をした。韓国論山RCとの姉妹血縁と毎年の相互交流に身を挺して主導した。優れた文章力、表現力は整然・明瞭であり、スピーチ発言は無修正で起草できるほどであった。賢者をよそわず、あえて親睦活動・会員融和を図る重要な役目に徹していた。クラブ愛好会の幾つかを活用して、若手会員との融和を進めた。「増毛で秀才の評」旧制留萌中学で富山先生と共に増毛の秀才。つまり両雄並び立っていたのであります。

(次週につづく)